



## 笹子峠の西の麓の伝説・民話

### 松明山 (ていまつやま)

駒飼宿の東に小高い山というよりも丘がある。村人は松明山 (ていまつやま) と呼んでいる。今から500年も昔、この丘に狼煙台があり有事の際は、昼は煙で、夜は松明で合図して急を知らせたということである。

この狼煙台の近くに松の大木があり、その根方に山の神様を祀った小さな祠があった。山の神の御神体はピカピカに磨かれた大きな水晶の玉であった。日照りが続くと村人は山の神様に雨乞いをした。お祈りをすると御神体の水晶の玉が水気を含み、忽ち曇天となりご利益があり必ず雨が降ったと云うことである。

ある年、村の欲張り爺さんが御神体を一人占めにしようと家に持ち帰って、自分の畑だけ雨が降るように祈った。ところが長雨が続き、その家だけが水浸しになってしまった。これは山の神様の神罰だと爺さんは恐れをなして、さっそく御神体を山の祠へ返した。そうすると幾日も続いた長雨も上がり、からりと晴天になったということである。

今では松の木も伐られ、また山の神様を祀った祠も朽ち果てて、御神体もどうなったか定かでない。

### 叶岡地蔵 (かなおかじぞう)

昔、大洪水があつて土の中に埋まっていたお地蔵さんが、土が洗い流されて再び姿を現した。村人はもったいないと駒飼の仲宿の「叶屋 (かのうや)」の屋敷にお祀りした。このお地蔵さんは、願い事を叶えてくださるので村人は叶岡地蔵 (かなおかじぞう) さんと呼んでいる。真心こめてお願いするとお地蔵さんは軽く持ち上がり、願い事を叶えてくれる。欲張った事をお願いしたり邪心があると、重くてなんとしても持ち上がらず願い事を叶えてくれない。このため、村人から厚い信仰を集めていた。

幾人か役員さんを選び、毎年4月24日を祭りの日と定め、お祭りをして無病息災と幸福を祈願した。村には何事もなく長いこと息災の日が続いた。

ところがある年、毎年お祈りをするのも大変だから1年おきにしようと相談がまとまり、翌年はお祭りを休みとした。ところがどうしたことかその年、村に病気が流行り不思議なことに役員さんの者ばかり病気にかかった。きっとお地蔵さんのお祭りをしなかったのではないかと噂が流れた。そこで、役員さんは寄合をして元通りお祭りをすることに決め、今日に至っている。

お地蔵さんはいつも慈しいお顔で村人を見守っていらっしゃる。